

心に響く 歌、かたり…

南部町人権フェスティバル

だれもが生まれながらに幸せに生きる権利、“人権”を持っていきます。心に響く歌や語り、お話などで、心の元氣を取り戻し、町民の皆さんが人権を身近なものと感じることができるよう九月二十五日にプラザ西伯で人権フェスティバルを開催しました。



身振り手振りも交えた俳優、紅谷与一さんによる『部落根っこばなし』の語り。現代に生きる私たちが忘れてしまった大切なものがそこにあります。



立岡勇一さんによる人権ライブ。「人権は、決して堅苦しくなく、難しい問題でもありません。いつも私たちの傍らにあり、心の中にあるものです。でも、わかっているつもりが一番怖いことです。」

● 来場された方の感想 ●

● 「私は始めて参加しました。農繁期なので入場者が少なかった。でもこんな時期、忙しいけどひと時ゆつたりとした気分になりました。私も一日の中で一時間でもいいから今日の気持ちを切り入れるような生活をしていこうと努力したいと思っています。」

● 「初めて参加させていただきましてだけでも次回も必ず出かけたかったです。立岡さんも言うとおられました参加することの大切さ、次回はもう少したくさんの方にぜひ参加してほしい。」

● 「よかった。感動しました。明るい人権啓発がいいですね。」

● 「もっと多くの人（特に若い世代）が参加して、一緒に流れをつくれたらいいと思います。内容がとてもよかったです。周りに宣伝します。」



男女が共に担う社会づくりを目指して、男女共同参画会議の活動を紹介しました。



やさしいことをすると美しい花が一つ咲くという「花さき山」の物語。語りと琴の演奏が心に染み入ります。